

テーマ別セッション「自然環境保全と地域再生」

コーディネーター 菊池俊一（北海道大学大学院農学研究院）

ふるさとの原風景というと、水田、畑、里山、小川、ため池、農家などの農村環境を連想する日本人は多い。そのような農村環境は、原生自然の破壊ではあるが、長い年月をかけて安定的な二次自然を作り上げていたため、自然調和的あるいは自然共生的な景観であったと評価できる（磯崎、2006）。しかしながら、第二次大戦後の国土計画および第一次産業政策の失敗により（本間、2007）地域は疲弊・衰退し、農村環境は荒廃し、ふるさとの原風景は大きく変容した。

破壊され、衰退したのは二次自然だけではない。地域の歴史、伝統、風土を支える原生自然環境も、その姿を急速に変容させていった。近百数十年といたごく短期間のうちに原生自然環境が大きく変容した地域の一例として、北海道十勝地方をみてみよう。

今は豆類・小麦・ジャガイモなどの耕地が広がる「農業王国」十勝平野も、かつては広く森林に覆われていた。火山灰が厚く堆積した段丘面などの乾性立地にはカシワ林が、そして河川沿いの低地や斜面下部などの湿性立地にはハルニレ、ヤチダモ、ハンノキなどの林（紺野，1993）が広がっていた。そのような十勝平地林が農地や市街地急速に姿を変えていった契機は、やはり明治期以降の開拓の進展と言える。1886年に北海道庁は開庁したが、十勝内陸の開墾は1896年に下帯広村に北海道殖民課十勝派出所が設けられた以降であった。1897年に制定された北海道国有未開地処分法による開墾地の無償貸し付け、成功後の無償給与、さらには貸し付け面積の拡大などが後押しとなり、十勝の原野への入植はかなりの増加を見た（秋山，1993）。

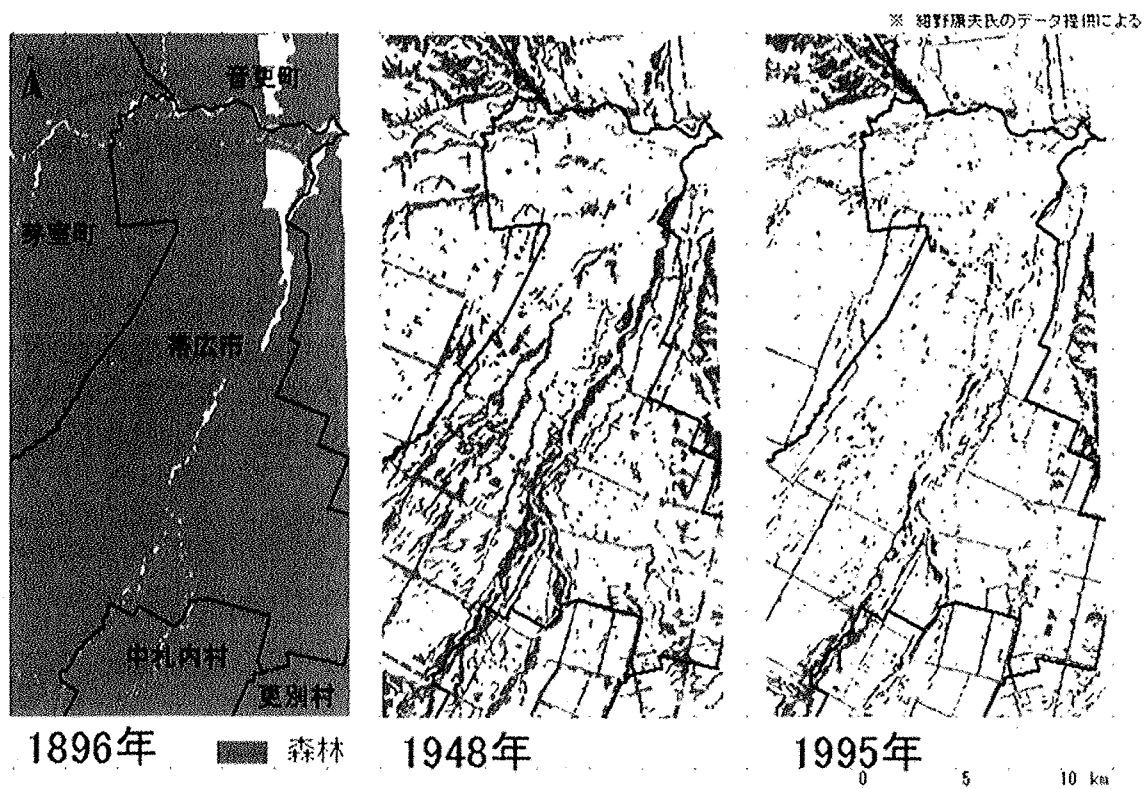


図-1 帯広市周辺の森林被覆状況の変遷（菊池，2002）

このような農地開墾以外にも、木質資源としての利用が十勝の平地林を減少させた。一例を挙げると、1907年には芽室町美生川近くに（秋山，1993），また1914年には上音更原野にドロノキ等を材料としたマッチ軸木工場が開設された。上士幌町では1911年に日本皮革会社が大面積の原野を払い下げられ、カシワの樹皮からタンニンの採取を行った（河合，1993）。カシワは薪炭材，鉄道用材，合板用材などにも盛んに用いられた。

帯広市を中心とした地域の森林被覆の変遷を図-1に示した。1896年（明治29年）にはほぼ全域が森林に覆われていたのが，1948年（昭和23年），1995年（平成7年）と時代を経るにつれ森林の広がりが少なくなり，残る森林は小さなパッチ状に分断・孤立化していることがはっきりと視認できる。

国策として急速に，そして大規模に展開された農地開発が作り出した地域景観を，現在の農地環境として肯定的に評価することも可能である。しかしながら，どの地域あるいはどのような産業であれ，その持続的存立のためには，自然環境との調和・共生は欠くことのできない命題となっており，久しい昨今，例えば，分断・孤立化した林地は，地域生態系を繋ぐコリドーとしての生態学的機能を発揮することができるのだろうか。水面ぎりぎりまで開墾された農地からの土砂流亡を防ぐためコンクリートにより固定化された川は，陸域生態系と水域生態系を繋ぐ役割を忘れてはいないだろうか。貴重な原生自然環境の保護と二次自然環境の保全とのバランスはどのようにとるべきなのか。自然環境の保全あるいは再生は，例に挙げた十勝のみならず，全国各地で疲弊し，荒廃・衰退している地域全てに当てはまる課題であり，地域再生の重要な条件となり得る。

本セッションでは自然環境の保護・保全と，地域社会の持続的存立あるいは再生との関連について参加者各位と考えてみたいと思う。「土地利用による流域環境の変貌と川の再生」等を長く研究されている長坂晶子氏（北海道立林業試験場）をナビゲーター役として迎え，地域における自然環境資源の保護・保全に関わる事例をみながら，地域市民，行政，研究者等がそれぞれの立場で果たすべき役割は何か，地域の再生あるいは持続的存立に結びつけるために解くべき課題は何か等を議論したい。

引用文献

- 秋山秀敏（1993）芽室町の原野開墾．（十勝大百科事典．十勝大百科事典刊行会編，1214pp，北海道新聞社，札幌）．240-241
- 本間義人（2007）地域再生の条件．222pp，岩波書店，東京
- 磯崎博司（2006）自然および農村環境の再生—日本の原風景の保全に向けて—．（地域再生の環境学，淡路剛久監修，寺西俊一・西村幸夫編著，323pp，東京大学出版会，東京）63-95
- 河合松夫（1993）上士幌町の原野開墾．（十勝大百科事典．十勝大百科事典刊行会編，1214pp，北海道新聞社，札幌）．237-238
- 菊池俊一（2002）開拓と市街化に伴う森林の変遷．（十勝平野の森林の変遷と現状—森と郷土の共生のために—，矢島 崇・菊池俊一・宮本敏澄編著，57pp，どんぐりばんく，帯広），20-28
- 紺野康夫（1993）平地林．（十勝大百科事典．十勝大百科事典刊行会編，1214pp，北海道新聞社，札幌）．101-103
- 紺野康夫（1993）緑地面積の変遷．（十勝大百科事典．十勝大百科事典刊行会編，1214pp，北海道新聞社，札幌）．116-117